

船舶事故調査報告書

平成26年11月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年1月26日（日） 11時00分ごろ～27日（月） 09時25分ごろの間）
発生場所	不明（北海道 <small>おくしり</small> 奥尻町 <small>まつえ</small> 松江漁港沖～奥尻町 <small>あおなえ</small> 青苗岬南南東方沖の間）
事故調査の経過	平成26年1月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 第三 <small>たか</small> 孝丸、0.3トン なし、個人所有 不詳、FRP 不詳
乗組員等に関する情報	船長 男性 78歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年12月5日 免許証交付日 平成24年6月4日 (平成30年6月2日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	船外機に濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、たら等一本釣りの目的で、平成26年1月26日10時00分ごろ松江漁港を出港し、11時00分ごろ家族へ風が強くて帰れない旨の連絡をした後、27日09時25分ごろ、青苗岬灯台から真方位160° 8.9海里付近で、転覆した状態で漂流しているところを捜索中の青苗救難所所属船に発見された。 船長は、10時05分ごろ本船が発見された付近の海域において、漂流しているところを発見されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。 本船は、11時30分ごろ、僚船にえい航されて奥尻町青苗港に帰港した。
気象・海象	気象：天気 雪、風向 北、風力 9 海象：波高 約5m 奥尻町には、1月26日04時19分に風雪・波浪注意報が発表さ

	<p>れ、本事故時、継続中で、奥尻地域気象観測所の観測データによれば、26日10時00分における平均風速が0.4m/sで、11時10分には14.2m/sに達していた。</p>
その他の事項	<p>本船は、和船型の磯船で、漁船として使用されていたものを船長が譲り受けたものであったが、日本小型船舶検査機構の検査を受けていなかった。</p> <p>本船は、漁船登録抹消前の漁船原簿によれば、平成2年9月に進水し、登録長5.45m、幅1.22m、深さ0.42mであった。</p> <p>本船は、僚船にえい航されて帰港した際、船内に馬力数15のガソリン機関を備えていた。</p> <p>船長は、大工仕事のアルバイトの傍ら日曜日等に趣味の釣りに出ている。</p> <p>本船は、船長の親族が乗る漁船邦丸と共に松江漁港を出港した。</p> <p>青苗救難所は、船長の家族等から報告を受け、26日13時02分ごろ、海上保安庁に本船及び邦丸が予定時刻を過ぎても帰港しない旨の通報を行った。</p> <p>船長は、発見されたとき救命胴衣を着用していた。</p> <p>26日11時30分ごろの青苗港では、吹雪で視界が約100m以下に制限された状態であった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>あり</p> <p>船長の死因は、溺水と検案された。</p> <p>本船は、26日11時00分ごろ船長が家族へ風が強くて帰れない旨の連絡をした後、27日09時25分ごろ青苗岬南南東方沖において、転覆した状態で漂流しているところを発見されたことから、この間において船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、松江漁港に向けて帰港中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出港前に気象海象情報を確認し、荒天が予想される場合は、出港を見合わせる。